

重症例を含む慢性心不全に有効な和温療法

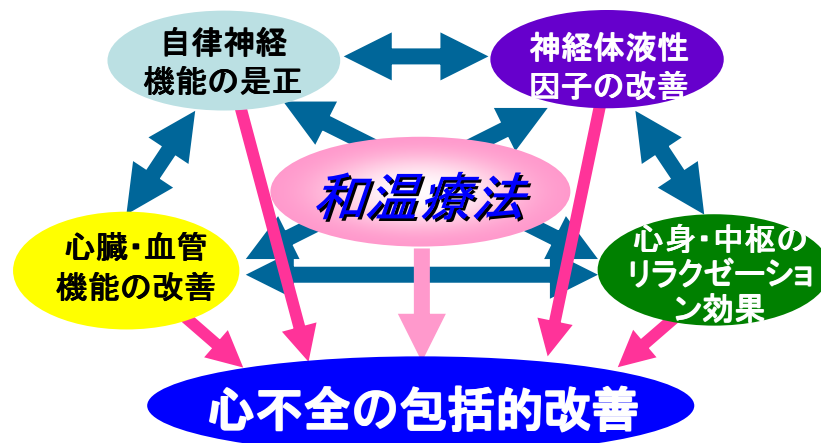
[概要]

和温療法（60℃・15分間の遠赤外線乾式均等サウナ浴と浴後30分間の安静保温）は、慢性心不全に対して安全、有効、低コスト、患者に優しい治療法である。通常治療は患者に痛み・がまん・ストレスを強いるが、和温療法は治療自体が患者にとって爽快で、心地良さを与える「和む・温もり」療法である。

和温療法は Systemic Adaptation をもたらす。和温療法の治療対象は、拡張型心筋症や虚血性心筋症などによる軽症～重症の慢性心不全で、難治性の重症心不全患者にも有効である。心不全に対する和温療法の有効性は、臨床症状（自覚症状）の改善、予後の改善、BNPの改善、心拡大の縮小で容易に評価できる。

和温療法の継続は、**下図**に示す如く、心不全の心臓・血管機能の改善、自律神経機能の是正、神経体液性因子の改善、心身のリラクゼーション効果など多彩な効果を引き出し、さらに各々の改善は相互に効果を増幅させ、心不全を包括的に改善する。その結果、心筋の繊維化・変性が広範囲で、難治性重症不全の患者さんに対しても、和温療法の継続は、日常生活を普通に過ごせるほど回復させることも稀ではない。

和温療法は、薬物療法に治療抵抗性の難治性心不全患者に対しても有効で、心不全を包括的に治療する日本発の革新的治療法といえる。



点滴加療中の重症心不全患者
均等 60℃・15分間のサウナ浴



小型の移動可能な場所をとらない
遠赤外線乾式均等サウナ治療装置



毛布による30分間の安静保温



薬事承認申請までのロードマップ(医療機器)

試験機器名：和温療法器（製品名：CTW-5000）

適応疾患：慢性心不全（拡張型心筋症や虚血性心筋症などの心筋障害による心不全）

臨床研究

- ・試験名：慢性心不全患者に対する和温療法の前向き多施設共同研究
- ・薬事未承認の温熱機器を使用
- ・試験デザイン：二群無作為化比較試験
- ・期間：2005年～2007年
- ・被験者数：NYHA II～IVの188例
- ・結果の概要：和温療法の慢性心不全に対する安全性と有用性を確認。
[Journal of Cardiology](#) 2008; 52: 79-85

高度医療

- ・試験名：慢性心不全患者に対する和温療法の短期効果と安全性の検討：多施設前向き共同研究
- ・薬事承認を得た温熱機器を使用
- ・試験デザイン：二群無作為化比較試験
- ・期間：2012年4月～2012年12月
- ・被験者：NYHA (III～IV), BNP>500 の70例
- ・評価項目：NYHA分類、心胸郭比、左室径、BNP、6分間歩行距離など

薬事承認申請検討

欧米での現状：薬事承認：米国（無）、欧州（無）、ガイドライン記載：無

臨床試験：Mayo Clinic（米国）で慢性心不全（NYHA III）9例を用いたCross-Over試験（週 3回・4週間の加療）で安全性と有効性を確認（[Archives of Physical Medicine and Rehabilitation](#) 2009; 90: 173-177）

国内での現状：ガイドライン記載：日本循環器学会慢性心不全治療ガイドライン（2010年度改訂版）

- ・使用実績：22年間で1,000例以上の慢性心不全患者に和温療法（60℃・15分の乾式サウナ浴）を実施し、重篤な不具合を発現した症例はなし。ただし起立性低血圧を有する例で、まれに軽い立ちくらみあり。
- ・和温療法の禁忌：発熱や細菌感染の合併時
- ・進行中の臨床試験：
 - ・慢性心不全患者に対する和温療法の長期臨床効果（予後）の検討
 - ・二群無作為化比較試験により外来での6ヶ月間の効果を検討

当該高度医療における

- ・選択基準：慢性心不全（NYHAのIII～IV度）
- ・除外基準：活動性の感染合併患者
- ・予想される有害事象：出浴後の軽い立ちくらみ

申請に至らなければ

新しい試験デザインの高度医療
または治験の追加を検討